

「病院へ行きたくても行けない」という問題は決して珍しいことではありません。郵便局という地域住民に最も身近な社会インフラを活用しながら医療につなげる取り組みは、沖縄だけでなく九州各県、さらには全国の参考になる可能性を秘めていると改めて感じました。

会場で牧角会長のお話を伺いながら、「これは沖縄が少しだけ時代の先を歩いているのかもしれない」と、ほんの少し誇らしい気持ちになりました。もちろん課題も多い実証事業ですが、離島県沖縄だからこそ生まれた知恵が、将来日本の地域医療を支えるヒントになるかもしれないと思うと期待が膨らみます。

続いて、田名毅会長から地域医療対策委員会の報告が行われました。全国20名の委員による議論をもとに、大都市型、地方都市型、過疎地域型それぞれの課題と方向性が示され、大変興味深い内容でした。

その中で紹介された沖縄県の取り組みは、まさに「沖縄らしさ」全開でした。働き盛り世代の健康課題に対し、県や労働局との連携による産業保健活動を進めるだけでなく、お笑い集団とのコラボレーションによる健康啓発や、沖縄ファミリーマートと連携した医師会・栄養士会監修のおにぎり販売など、多彩な取り組みが紹介されました。さらにスーパーや銀行への血圧計設置など、県民の皆さんに自然に健康へ関心

を持っていただく工夫も報告されました。

おにぎりが地域医療の話題として日本医師会の委員会報告に登場する県は、もしかすると沖縄くらいかもしれません。会場で話を聞きながら、「沖縄県医師会もなかなかやるな」と少し鼻が高くなったのは、ここだけの話です。

もちろん、こうした取り組みは単なる話題づくりではありません。医療機関の中だけでは解決できない健康課題に対して、行政や企業、地域住民と連携しながらアプローチしていく姿勢そのものが評価されているのだと思います。

今回の会議では、全国各地が抱える課題の大きさを改めて認識するとともに、沖縄県医師会が取り組んでいる活動が決して地域限定のものではなく、日本の未来の地域医療を考える上で参考となる先進事例になり得ることを実感しました。

沖縄は地理的には日本の南の端にありますが、医療のアイデアや挑戦については、時には九州や日本全体の先頭を走る存在でありたいものです。そんなことを感じながら、会場を後にした有意義な時間となりました。

※報告書の詳細につきましてはホームページをご参照下さい。
<https://www.okinawa.med.or.jp/medical/kaihou/houkoku/202303-2/>



お知らせ

暴力団追放に関する相談窓口

暴力団に関するすべての相談については、警察ではもちろんのこと、暴力団追放沖縄県民会議でも応じており、専門的知識や経験を豊富に有する暴力団追放相談委員が対応方針についてアドバイスしています。

暴力団の事でお困りの方は一人で悩まず警察や当県民会議にご相談下さい。

●暴力団に関する困り事・相談は下記のところへ

受付 月曜日～金曜日（ただし、祝祭日は除きます） 午前8時30分～午後5時15分

TEL (098) 858-8930 FAX (098) 858-8931 (24時間対応可)

電話による相談で不十分な場合は、面接によるアドバイスを行います。

「暴力団から不当な要求を受けてお困りの方は……悩まずに今すぐご相談を（相談無料・秘密厳守!）」

財団法人 暴力団追放沖縄県民会議